

習慣と相互理解

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

日本で指を使って数を数える時、親指から手を握るように「1、2、3、4、5」と数え、小指から「6、7、8、9、10」と手を開くようにして数えることに皆さんは慣れていることと思う。

しかし、ネパールでは指の関節間のスペースを使い数える。小指から数え始めるのは日本とは逆になる。小指の付け根と第二関節の間を親指で指し「1」と数え、第二関節と第一関節の間を「2」と数え、第一関節と指先の間を「3」と数える。次に薬指を親指で指し「4、5、6」と数え、中指「7、8、9」、人差し指「10、11、12」と同じように数え、最後の親指は使いやすい指で指し「13、14、15」と数える。右手で数える時は右手だけを使う。片手で15まで数えることができる。言葉の説明では分かり難いですが、このように数の数え方ひとつでも国や地域が違っていると、大きく違う。

まず、国どうしの一番の大きな違いは言葉になるでしょう。外国語を勉強して喋れるようになっても、その背景にある文化・習慣を知らなければ言葉の理解も使い方もちょうど中途半端になってしまう。翻訳経験のある方は、ただ言葉を置き換えるだけでは伝わらないことが多いことを理解されていると思う。

日本語の「ありがとう」に訳されるネパール語の「ダンニャバード」は意味の深い言葉で、達者でありますように！とか、幸せでありますように！とか、感謝します！

と、いくつかの意味がある。どちらかというと個人的より社会的に使われ、年上や地位のある人が使うことが多い。ネパールでは年長者や恵まれている人が、年下の人や困っている人を助けるのは社会通念上、当たり前前で、受け取る側は遠慮しながらも、そのまま受け取る。いつも受け身ではなく、自分ができる範囲で、またはできる時に、同じようにはできなくても、助けたり手伝ったりする。助け合いが暗黙の了解の社会だったから、お互い感謝の言葉を言い合う習慣が育たなかったのかもしれない。今でも日本で使われているような「ありがとう」に当たる言葉はない。

では、「ダンニャバード」はどういう時に使うかということ、あまり親しくない間柄で使ったりする。しかし、都市の若者は軽く英語の「サンキュー」を使ったりもする。

もうひとつ「ありがとう」と訳してもいい言葉に「ジャヤホース」があり、祝福を祈ります！の意味がある。これは恵んでもらわざるを得ない人たちが、恵んでくれた人に返す言葉になっている。

地域ごとの生まれた時から接する習慣は常識になる。しかし、この国際化の時代においてネパールでも日本の「ありがとう」に当たる感謝の言葉が育てばいいと思う。

謝罪の言葉も同じで、とても重い。

次に、会員の皆さんならご存知の「ナムステ」は、1日のどの時間帯でも使える挨拶の言葉で、別れの挨拶でも使う。右手と

左手を等しく胸の前で合わせ「ナマステ」と軽くお辞儀をして挨拶するのは、日本でお辞儀をして挨拶するのと似ているかも知れません。両方の手は相手と自分を表し、お互いの平等を意味し、気持ちを通いあわせましょうという意味がある。手を合わせたり、お辞儀をしたりする動作はもう習慣となっていて自然と出てくる。



ナマステと挨拶する子供たち

そして知る人ぞ知るネパールでの「ハイ」と背く方法は、日本とはまるで違う。前を向いたまま頭を右か左のどちらかに傾け、戻す。これを知らないと「ハイ」でいいのか、ちょっと戸惑ってしまう。

ネパール通の皆さんにはお馴染みの「ジェトロー」はネパールで生活する上で知っておかなければならない大事な習慣になる。食器に盛られた食事の食べ残しは「ジェトロー」と言って汚れたものという意味になる。他人が口付けた食物や飲物は勿体ないからと言って食べたり飲んだりはしない。ペットボトルから飲む際は口から離して飲むのが習慣になっている。日本はとても清潔で掃除も行き届き、右手を使い食べる習慣のネパールと違い、箸やスプーン、フォークを使い食べる。しかしネパールにはネパールなりの清潔を保つ習慣があるのを知って

もらいたい。

日本では買物のたびに値切ることは、あまりないようだが、ネパールでは買物の際は必ず値切る。値下げが無理なように思えても、値切ってみる。無言や口数少なくで買物をするなんてありえない。やり取りをすることでコミュニケーション能力も育っていく。それに、何ととっても楽しいし、思わぬ情報も得られる。

そして、ネパールでは日本と違って、町に出るとネパール語だけでなく各民族の言葉や外国語に接する機会が多い。そのような環境で育つことや買物の例で示したようにたくさん喋ることで、たぶん私たちは外国語を喋ることにおいては、日本の方よりは抵抗がないと思う。それが習慣となると習得も早い。

今回はここまでにして、まだまだ多くの違いがあり、ネパール国内でも私が知らない習慣もあると思う。

文化・習慣は国内においても一律ではなく、各家庭間でも違ったりするのは、よくあることだ。日本のテレビ番組でもやっている各地域の食生活の違いを見ると、びっくりしたり感心したりと興味をそそられる。エスカレーターに乗る際、東京では左に立ち右側を空ける。大阪で見たのは逆の立ち位置だった。誰がいつ決めたことなのでしょう？このように説明できないと思われる習慣？も数多くある。

人でも国でも同じでないところが面白い。お互いを尊重し存在を認め、出会いの奇跡を思い、想像力を働かせ、地球の仲間として助け合える私たちでありたい。